

# "Around the Corner"

学校長 横山 豊



京都に「哲学の道」と呼ばれる歩道があります。京都大学の哲学者・西田幾多郎や田辺元らが好んで散策し、思案を巡らしたことからこのような名前と呼ばれるようになりました。今は結構な観光名所となっていますので、



京都を訪ればかなりの確率で歩くかもしれません。その「哲学の道」の途中の坂の下に、「若王子(にゃこうじ)」という名前の隠れ家のような喫茶店がありました。大学時代を京都で過ごしていた私はとても気に入っていたので、そこでコーヒーを飲むことも目的で、部活動(美術部)の作品制作でアイデアが浮かばない時や美術館や画廊を見に行った帰には、その界隈をよく散策しました。

岐阜で暮らすようになってからは、自動車移動の生活にどっぷりと浸かってしまったため、歩くことはめっきり少なくなっていました。そこで健康のため、最近になって再び散歩をするようになりました。但し、なかなか時間が取れないこともあり、何と「夜」歩くことにしています。さらに四季の中でお気に入りの散歩の季節は、実は「冬」です。しっかりとダウンジャケットを着込んでニット帽をかぶり、完全武装で歩き始めます。暫し立ち止まって静寂の中、天空を見上げていると、とりわけ雨上がりのよく晴れた日の夜などは空気が澄み渡り、冬の星座や月が実に美しく感動的で、心も洗われリセットされます。かなり深い悩みごとのある時でも、無心で歩いているうちに、時には思わぬ解決策がふと浮かんだりします。行き詰まっている時に、突然良いアイデアが舞い降りてくることもあります。

この一年半は、コロナ禍で今までに想像もしなかったことが次々と起こりました。その度に常に判断に苦しむことばかりで、時にはお先真っ暗な気分にもなりましたが、教頭先生を中心とする先生方に助けてもらい、生徒諸君や保護者の皆さまのご協力も得られ、何とか乗り越えてこられました。

私は、第2次世界大戦終戦の10年後である昭和30年に生まれた、「戦争を知らない子どもたち(結構流行ったフォークソングの歌の題名でもあります)」と呼ばれた世代の人間です。「平和な世の中で、戦争中に生まれなくてよかった。そして、現在まで日本は戦争をしていないので、平和なまま人生が終われるのかな」と、つい最近まで思っていました。ところが、1995年に阪神・淡路大地震、2011年に東日本大震災と大震災という名前のつく天災が2つもありました。世界大戦のような戦争は起こっていませんが、それに匹敵するこのコロナ禍です。5月に入って日本のコロナウイルスによる死者は1万人を超えてしまいました。これは東日本大震災の15,900人の死者数に迫る数です。これはアルペール・カミュの小説「ペスト」に出てきた司祭の言葉を借りれば、「神の裁き」なのかもしれません。

たとえこのコロナ禍を抜け出したとしても、君たちのこれからの人生はこの数々の天災やコロナ禍のような「思わぬ出来事」が必ず起こることでしょう。その中で君たちは、それぞれの人生の分かれ道に差し掛かることになります。そして右に曲がるか左に曲がるか、大なり小なり迷うはずです。そのような時は、それまでの人生で身につけてきた知力を駆使し、自分自身で勇気を持って決断し、歩を進めるしかありません。どのような結果となろうとも、それも「君たちの人生」の選択なのです。

そのような時のために、十分な知力や判断力に基づく生きる力を身につけること。本校の教育目標でもありますが、「自ら考え行動する力」を身につけるために、君たちは今学校に通い、懸命に努力しているのです。

Around the Corner. 人生において、歩んでいく先の「曲がり角を曲がった先に」にどのようなものが、どのように待ち受けているかは分かりませんが、勇気を持って歩んでいきましょう。

最後に、アフターコロナの近い未来については、曲がり角を曲がった先に今よりは「明るい未来」があることを強く信じています。

※写真は扇本尚敏先生が撮影された"Blue Moon"を提供していただきました。